

生研公開講演

## 生研公開講演会

## 開会の挨拶

西尾 茂文 (東京大学生産技術研究所 所長)

本日は、生産技術研究所並びに駒場リサーチキャンパスの公開におこしいただきましてどうもありがとうございます。生研については4つの講演が準備されておりまして、あした3件、本日1件ということで、トップバッターの加藤先生のお話のまえに、所長として簡単にご挨拶をさせていただきます。

いま羽田野先生から、大変狭い所だというお話がございました。確かにいま生産技術研究所は、大きな会議室を持っておりませんので、本日は大変窮屈な会場で申しわけないと思いますが、ちょうど右手になりますけれども、いま、われわれの念願であった総合研究棟というのを建設中でございます。来年の公開には間に合うと思います。そこには300人程度の大きな会議室を予定してございますので、来年もぜひおこしいただければと思います。

一言だけ申し上げますと、ご承知のようにことしの4月から東京大学は国立大学法人として新たなスタートを迎えました。法人になるということがどういうことかというのはいろいろ構成員の中でも解釈がありますし、みなさんのご判断もおありかと思いますが、私はござとへんの「保障」からごんべんの「保証」への移行であるというふうについております。ござとへんの保障、つまり自治を保障されてきたわけです。われわれはその上にさらに、われわれの研究成果、教育成果を社会に還元する、どういうものを還元するかということをギャランティーしていかなければいけないという意味で品質保証の保証というものが新たに大きなミッションとして加わったというふうに理解をしています。

では生産技術研究所として何を社会にギャランティーしていくのかというのはいろいろ考え方がありますが、1つ

は、研究における、あるいは教育における多様性と戦略性だと思っています。

大学の研究は、個々人の先生方の独創性、着眼点を生かした多様な研究というのが生命線です。ただし、個々の研究がばらばらに行われていては社会への還元もままならないということで、それらの成果を戦略性をもって束ねていき、大きな研究にしていくということが生産技術研究所の第一のミッションだろうと思います。

幸いなことに教授、助教授を含めまして100名以上のスタッフを抱えておりますので、工学分野をほぼカバーできる研究陣容を持っているということで、先ほど申しました多様性と戦略性というのが一つのミッションだろうと思っております。

第2のミッションは、そうやって生まれてきた知の蓄積、蓄積された知、あるいは創造された知識、知というものを社会に還元していくということだと思います。生産技術研究所は、設立以来基礎研究にとどまることなく実技術への結実を図るということをモットーとして産学官連携などをやってまいりました。これは今後もおそらく変わらない大きな柱となるとわれわれは考えております。

最後に3つ目ですけれども、われわれだけの研究所では、あるいはスタッフではまだまだ研究のマスとしては小さいものでございますので、学内、国内、あるいは国際的なネットワークの核になろうと、国際拠点としてわれわれがネットワークの核になって日本の研究あるいは技術のリーダーシップを発揮していきたいと思っておりますので、ぜひ講演をはじめ展示もなされていますので、きょう、あす、ごゆっくりご見学をいただきますようお願いを申し上げます。以上でございます。